



「竹田のかんがい用水群」

登録記念式典

この度、「竹田のかんがい用水群」が世界かんがい施設遺産として登録されました。
古くからこの地で農業を営み、用水路を守り育ててきた先人たちの並々ならぬ努力
と知恵、そして現在もなお、その恩恵を受けて地域を支えている多くの関係者の皆様の
長年のご尽力の賜物であります。

これらを記念し、記念イベントと登録記念式典を開催します。

(入場無料ですが座席に限りがあります。)

●日 時 令和7年11月26日(水) 13:00 開場～15:55 閉会

●場 所 グランツたけた 廉太郎ホール

●プログラム

① 記念イベント「イロについてイロイロカタロー」 13:30～

・発表校「荻小、城原小、祖峰小の5年生」、感謝状授与

② 登録記念式典 15:10～

・感謝状授与、今後の活用方針等



城原井路「神田頭首工」



富士緒井路「白水ため池」



富士緒井路「白水ため池」(築造当時)



城原井路「落門の滝」



明正井路「第一拱石橋」



宮無井路「円形分水 12号分水」

二重の円と20の四角窓で造形され、平等な量水を分配するため設計



若宮井路「笹無田石拱橋」(築造当時)



明正井路「第一拱石橋」(築造当時)



若宮井路「笹無田石拱橋」



明治岡本井路「石垣井路」



荻柏原井路「菅の農地の様子」
(とうもろこし畑)



白水井路「白水の滝(取水口)」



荻柏原井路「電動掘削機」
日本初の電気掘削機を導入した隧道

竹田市 世界かんがい施設遺産 登録推進 実行委員会

(お問合せ先 農林整備課 0974-63-4806)

竹田のかんがい用水群

～でこぼこ・かちかちで生きるイロイロ～

(1) 申請の概要

申請施設は、大分県竹田市に位置し、^{おおのがわ}大野川（流域面積 1,465 km²、長さ 107 km）上流の中山間部の水田をかんがいする大小 21 本の用水路群である。これらの用水路は、1663 年から 1924 年にかけて築造され、現在も 2,562 ha の水田に用水を供給する。竹田では、豊富な水資源を活かして、古くから稲作が行われてきた。しかし、竹田は中山間地にあって、起伏に富む地形のため、かんがいには隧道や水路橋など高度な水利技術が求められた。また、平野部は河川沿いにわずかな面積で点々とあるため、数多くの取水堰、用水路、分土工が必要であった。最も古い^{きばるいろ}城原井路（1663 年築造、幹線水路 7.7 km）は、多数の支線水路とあわせた総延長が約 130 km であり、広域に点在する水田へ用水を供給するため、約 1,300 の分水箇所がある。また、幹線用水路の下流部には、かつて高台から余水を放出して台地底部の水田に用水を供給する仕組み（^{らくもん}「落門の滝」^{はくすいいろ}（国・登録記念物））があった。白^{ふじおいろ}水井路（1900 年築造、幹線水路 8.3 km）や富士緒井路（1914 年築造、幹線水路 14.2 km）では、隧道区間がそれぞれ 7.1 km と 11.7 km にもなる。また、総延長約 175 km の^{めいせいいろ}明正井路（1924 年築造）には 17 基の水路橋がある。特に、6 連アーチ橋は国内最大規模の石造水路橋である。このように、現存する竹田の用水群は、中山間地における水田開発の苦労と農業水利の発展の歴史を物語る貴重な施設といえる。

(2) 施設名称

竹田のかんがい用水群（頭首工及び水路）

(3) 施設の管理者

城原井路土地改良区、荻西部土地改良区、竹田市土地改良区、白水井路土地改良区、朝地町土地改良区、富士緒井路土地改良区、明正土地改良区、荻柏原土地改良区等

(4) 申請者

竹田市世界かんがい施設遺産登録推進実行委員会 会長 土居 昌弘（竹田市長）

令和 6 年 7 月 10 日に設立。実行委員会では「登録事業の達成」はもとより、登録以降を見据えて「教育学習」「観光・農業」「情報発信」「その他事業推進に必要な事項」について、令和 6 年度より地元の土地改良区等や関係機関と連携・協議をし、その推進を図っている。

【参考】

世界かんがい施設遺産 とは・・・

かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資するために、歴史的なかんがい施設を国際かんがい排水委員会（※ICID）が認定・登録する制度です。国内登録状況(令和 6 年 1 0 月現在)については日本国内で 5 4 施設が登録されており、大分県内では宇佐市の 1 施設が登録されています。

(対象施設・登録基準)

○建設から 100 年以上経過（供用廃止施設も対象） ○農業水利施設であること（堰、水路など） ○9 項目の基準のうち 1 つ以上満たす施設（9 項目のうち主な基準）

- ①かんがい農業の画期的な発展、農業発展、食糧増産、農家の経済状況改善に資するもの
- ②構想、設計、施工、規模等が当時としては先進的なもの、卓越した技術であったもの
- ③設計、建設における環境配慮の模範となるもの 等

(国際かんがい排水委員会)

※ICID：International Commission on Irrigation and Drainage、本部所在地：インド、ニューデリー かんがい排水にかかる科学的・技術的知見により、食料や繊維の供給を世界規模で強化することを目的として、1950 年に設立された自発的非営利・非政府国際機関。日本は 1951 年に加盟。75 の国・地域が加盟し、各国は国内委員会を設置。